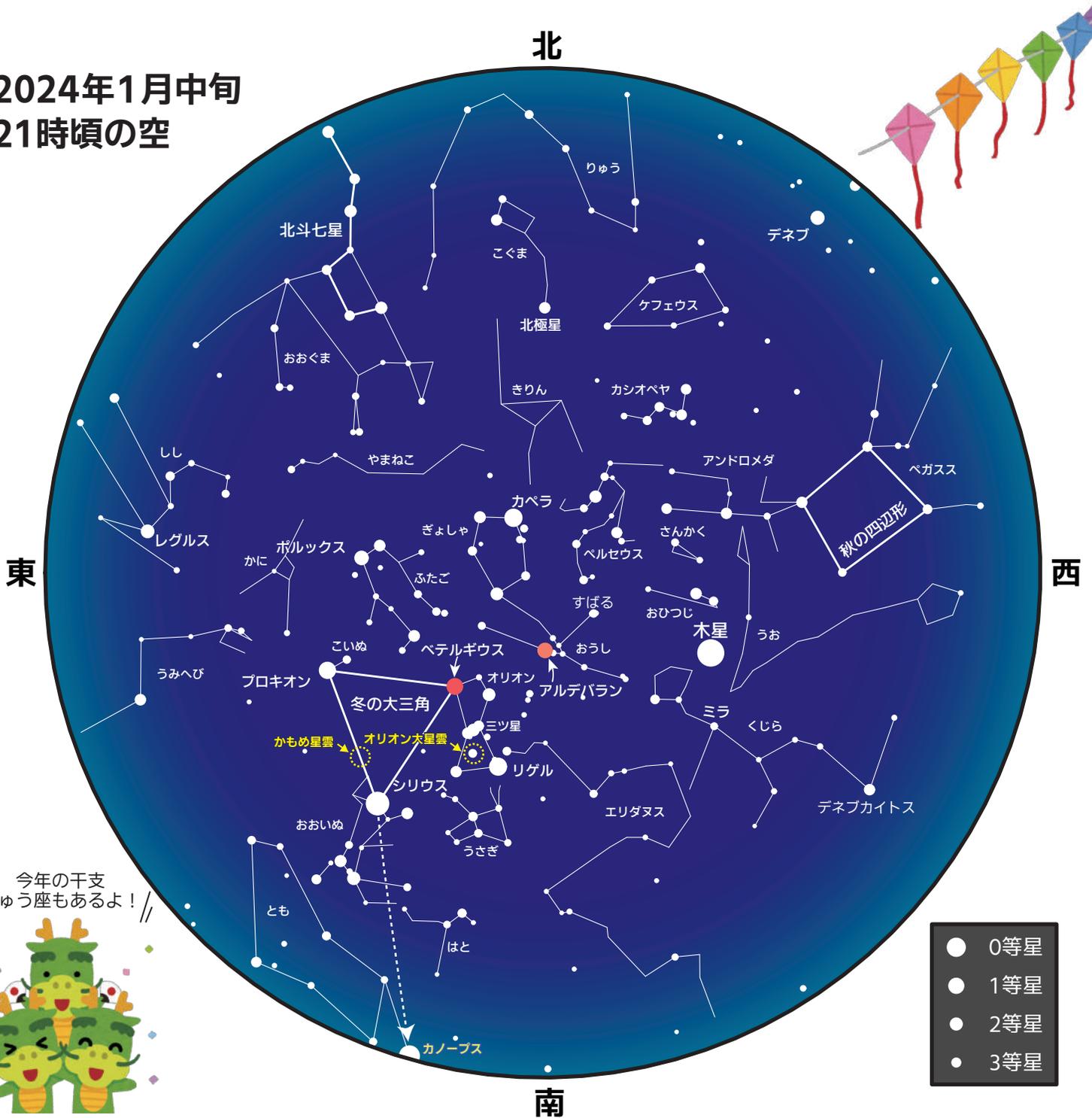


# 阿南市科学センター 1月の星空案内

2024年1月中旬  
21時頃の空



今年の干支  
りゅう座もあるよ!

昨年の12月は季節外れの暖かな日もありましたが、新年を迎えいよいよ本格的な冬となりました。夜空を見てすぐ目につく星といえば、頭の真上よりもやや西に輝く**木星**（約-2.5等）でしょう。他の星たちよりも明るく輝くため目につきやすい星です。一方、南から東の空にかけて主役を飾るのは冬の星たちです。南東の空に見える**シリウス**（約-1.5等）、**ベテルギウス**（約0.5等）、そして**プロキオン**（約0.4等）を結ぶと**冬の三大角**ができます。冬の星は明るい星が多く、どの星が冬の三大角なのかやや分かりづらいのですが、綺麗な三角形（正三角形）に近い形、そして目一杯のばした握りこぶしが入るくらいの大きさであると覚えておくと探しやすいかもしれません。さて、冬の三大角のひとつである**ベテルギウス**は少し赤みを帯びた色をしています。このベテルギウスのやや南には**三ツ星**、さらに南には白っぽい色をした**リゲル**（約0.1等）があります。これらの星と近くの星を砂時計のような形に結び、冬の星座でも人気の高い**オリオン座**の姿が見えてきます。

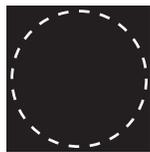
**【お知らせ】 建物の大規模改修工事に伴い 2023年12月～2024年2月中旬まで臨時休館致します。**

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

# 1月の月の満ち欠けと惑星について



下弦  
4日



新月  
11日



上弦  
18日



満月  
26日

## ●木星が見ごろ●



左から2023年12月2日の21:28、21:34、21:40に撮影した木星の姿です。木星は約10時間で自転しているため、わずか10分程度でも木星の模様が変わっている様子がわかります。(撮影: A.Mihari)

**水星** : 12日に西方最大離角をむかえ、日の出前、東のごく低空に見える。【約 -0.2 等】

**金星** : 日の出前、東の低空に見える。【約 -4.0 等】

**火星** : 見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。【約 1.4 等】

**木星** : 日没後より南の空高く見え、夜遅く西の空に沈む。【約 -2.5 等】

**土星** : 日没後より西の空低く見え、20時過ぎ西の空に沈む。【約 1.0 等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星は1月12日頃の明るさ。



## 今月オススメの天体

### ★カノープスにチャレンジ (りゅうこつ座)

冬の冬の大三角が真南の空に来る頃、天気が良ければ南の空のとても低いところに星が見えることがあります。りゅうこつ座にあるカノープス(約-0.7等)という星です。冬の冬の大三角であるプロキオンとベテルギウスの中点から、シリウス、さらに南の低空へとたどると見つけることができます。カノープスの見える高さはとても低いため、実際の空ではプロキオンやベテルギウスよりも暗く見えます。また、地平線からの高さは目一杯のばした指の幅2本分ほどです。そのため南の空がひらけているところで、低空までスッキリ晴れている日に観察をしてみましょう。

さて、カノープスは中国においては南極老人星とも呼ばれ、見ると長寿になれる、縁起が良い星としても親しまれています。年の初め、縁起物のカノープスを皆さんもご覧になってみてはいかがでしょうか。

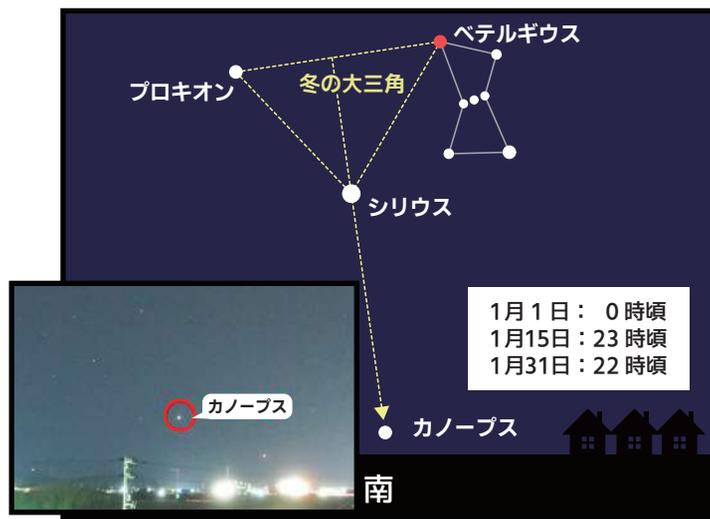


図1: 冬の冬の大三角とカノープスの位置関係

写真1: 科学センターから撮影したカノープス (撮影: A.Mihari)



写真2: かもめ星雲 (撮影: A.Mihari)

### ★かもめ星雲 (いっかくじゅう座)

冬の星座のいっかくじゅう座とおおいぬ座の境界近くには、かもめ星雲があります。とても淡い天体なので、望遠鏡で見ることにはできませんが、写真を撮ると赤いもやもやとしたものが鳥のような形に広がっている様子が分かります。この正体は宇宙空間にある水素のガスです。近くにある若い星の紫外線の影響を受けて、水素のガスが光を放ちます。その光の中には赤い色の波長を含むものもあるため、写真のように赤く見えます。

ところで、冬の夜空にはかもめ星雲と同じような仕組みで赤く見える天体が他にもあります。オリオン座の三ツ星の下にあるオリオン大星雲で、阿南市内なら肉眼でも見ることができます。双眼鏡があればぼんやりとしたガスの広がりまで見ることができますのでぜひご覧ください。